



2024年6月号(No.14)

多気町立図書館だより

TEL:0598-38-1133 (多気図書館)

TEL:0598-49-4500 (勢和図書館)

<https://www.town.taki.mie.jp/library/index.html>



三重県公共図書館連携展示

「熊野古道世界遺産登録 20 周年」

多気図書館

勢和図書館

6/1 (土) ~ 6/15 (土)

6/15 (土) ~ 6/27 (木)



来月、熊野古道伊勢路を含む「紀伊山地の零場と参詣道」が世界遺産に登録されて 20 周年を迎えます！

そこで、熊野古道関連の本やパンフレット等を展示いたします。

ぜひこの機会に本で読み、現地にも赴いてみてはいかがでしょうか？

多気図書館

6月のカレンダー

□：休館日

日	月	火	水	木	金	土
おはなし会 10:30~						1 おはなし会
2	3	4	5	6	7	8 おはなし ほけつと
9	10	11	12	13	14 おはなし おもちゃ	15
16	17	18	19	20	21 赤ちゃん おはなし 会	22 おはなし ほけつと
23 30	24	25	26	27	28 整理日	29

～コーナー紹介～

・雨の日をたのしもう

おうちで、お外で、
雨の日をどう過ごす？

・エコを考えよう！

6月は“環境月間”。いろいろな側面から環境について再確認、再発見！

勢和図書館

6月のカレンダー

□：休館日

日	月	火	水	木	金	土
おはなし会 10:30~						1
2 ほんと カフェ	3	4	5 おはなし会 (0歳)	6	7	8 おはなし会
9 移動図書館	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19 おはなし会 (1~3歳)	20	21	22 おはなし会
23 30	24	25	26	27	28 整理日	29

ブックスタート (おひさま) 6/21 (金) 10:00~

～ イベント 紹介～

・ほんとカフェ

日時:6月2日(日)13:00~

コラボ:「のこことさん」「金川珈琲」さん

・移動図書館 to あじさいまつり

日時:6月9日(日)

ところ:多気町丹生・丹生大師の里周辺

FB・Insta→「多気町立勢和図書館」

か「seiwalib」で検索

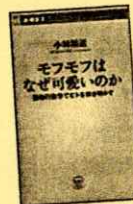


勢和:FB



勢和:IG

6月のおすすめ本



『モフモフはなぜ可愛いのか 動物行動学でヒトを解き明かす』

小林 朋道:著 新潮社 (141.7コ)

ホモサピエンス、ヒトはなぜモフモフを可愛いと思うのか？

ヒトはなぜ「怖いもの」を見たがったりするのか？

他の動物との比較などから、「ヒトという動物」について考察します。

人間的にもっと成長したいと思っている「ヒト」におすすめです！?

『あなたとSDGsをつなぐ「世界を正しく見る」習慣』

原貴太:著 KADOKAWA (333.8ハ)

「いらなくなった服などを貧しい国へ」。私たちが「良いこと」だと思って取り組んでいる事柄。求める「便利さ」。その先にあるものは貧困・紛争・環境などの世界的問題の原因に繋がっている！?

“SDGs” “広く知れ渡りつつある言葉ではありますが、その事柄の奥深くに見えてくるものは？



『便を見る力』 石井洋介:著 イースト・プレス (493.4イ)

まず便を見よ!! 便は身体の不調を教えてくれる!

平熱ならぬ、平便。普段の自分の便を知っていれば、ささいな変化も発見できるかも!

日本うんこ学会会長でもある著者が推す、自分の便を観察するカンベン(観便)を!

『辰巳芳子という生き方』 文化出版局:編 文化出版局 (289.1タ)

「スープというのは食材が持っている一番よいところを、静か~にもらって集めてしまうもの。」嚥下障害に苦しんでいた父の闘病を支えた体験から生まれた「いのちを支えるスープ」。今年、百歳を迎える辰巳さんの生き方、メッセージが詰まった一冊です。



『山の上の家事学校』 近藤史恵:著 中央公論新社 (F913.6コ)

山の上にある男性だけに家事を教える学校の物語。この学校には様々な事情を抱えた男性が通っています。自分で自分の生活を管理するのは大切なこと。そして、生きている限り生活は続いていくのです。この物語には性別を問わず、あらゆる世代の人に響く言葉が散りばめられているのではないのでしょうか。家事とは・・・??



『翻訳に生きて死んで』 クォン・ナミ:著 平凡社 (929.1カ)

韓国で人気の翻訳家、クォン・ナミさん。多くの日本作品を韓国語に翻訳し人気を博しています。今のような人気翻訳家になるまでには、並々ならぬ努力が…。売れ出してから山あり谷あり。しかしそんな苦勞を微塵も感じさせないようなタッチで書かれたクォン・ナミさんのドタバタ翻訳人生。

